

### 1) 策定の背景

- 国の動き
  - ・自転車活用推進法の施行(2017年5月)
  - ・自転車活用推進計画の策定(2018年6月)
  - 目標の一つに「サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現」
- 県の動き
  - ・「アワイチ」人気の高まりを受け、淡路地域においてサイクリングを核にした地域活性化の取り組みに着手(2010年)
  - ・「兵庫県自転車活用推進計画」の策定に着手(2019年4月)
  - ・県内各地域で地域を代表するモデルルート、サイクルツーリズム推進方策の検討に着手(2019年4月)

**現状**

淡路島におけるサイクリングの強み

- ・大都市からのアクセス
- ・ルートの魅力（距離、コースバリエーション、島を一周する達成感、海を眺めながら走る爽快感等）
- ・食事（ご当地グルメ等）
- ・絶景スポット
- ・温泉

淡路島におけるサイクリングの弱み

- ・自転車の走行空間、環境
- ・交通手段
- ・ルートの案内
- ・舗装の痛みや段差
- ・サイクリスト向け情報提供
- ・休憩箇所、給水箇所

※サイクリストアンケート調査結果より（2019年、洲本土木事務所）

### 2) 基本的事項

**モデルルート** 淡路地域を代表するモデルルートは、淡路島の海岸線沿いを時計回りに一周する「アワイチ」（延長約150km）とする

**基本方針** 【目的】サイクルツーリズムを進め、淡路島の魅力を発信し、交流人口の拡大による地域の活性化を図る  
 [進め方] ナショナルサイクルルートの指定に向け、「アワイチ」の走行環境や受入体制等の整備等の取り組みを関係者連携のもと進める

**計画期間** 2019(令和元)年度から2023(令和5)年度までの5年間（大阪・関西万博の前年までにレベルアップを図る）

### 3) 施策目標及び実施施策

めざすべき姿（目標）

- 目標1 誰もが安全・快適に走行できるサイクリング環境
  - 目標2 誰もが迷わずに走行できる環境
- 
- 目標3 多様なサイクリストが快適に休憩できる環境
  - 目標4 多様な交通手段の確保
  - 目標5 サイクリストが安心して宿泊することができる環境
  - 目標6 サイクリング中のトラブルに対応できる環境
  - 目標7 地域の魅力を満喫し、地域振興に寄与する仕掛けづくり
- 
- 目標8 誰もがどこでも容易に情報が得られる環境
- 
- 目標9 関係者の連携による施策推進



**施策1 走行環境の整備**（19施策）

- ・自転車安全・快適に走行可能な空間の確保（5施策）
- ・自転車通行空間の計画的な整備（1施策）
- ・併走や追い越しが可能な走行環境の整備（1施策）
- ・多様なレベルのサイクリストに対応した迂回ルート確保（1施策）
- ・他地域のサイクリングルートとの連携ルートの整備（1施策）
- ・サイクリスト、自動車ドライバー双方への注意喚起（3施策）
- ・良好なサイクリング環境を維持するための維持管理体制の確保（2施策）
- ・多様なサイクリストが迷うことなく目的地まで行くことができる環境の整備（5施策）

**施策2 サイクリスト受入環境の整備**（21施策）

- ・サイクリストに必要な機能を有した休憩施設の整備（4施策）
- ・誰もが気軽にサイクリングを楽しめる環境づくり（3施策）
- ・安全・快適にサイクリングを楽しむことができる地域社会の形成（1施策）
- ・サイクリスト受入拠点（ゲートウェイ）までの自転車の輸送手段の確保（4施策）
- ・サイクリストが求める機能を有する宿泊施設の確保（1施策）
- ・悪天候や自転車の故障、体調不良等のトラブル発生時に対応できる体制の確保（3施策）
- ・新たな観光価値を創造し、サイクリストに地域の魅力を伝え、地域振興を図る（5施策）

**施策3 情報発信の充実**（6施策）

- ・多様なサイクリストのニーズに対応する情報発信の充実（3施策）
- ・積極的なPR活動（3施策）

**施策4 取組を推進していくための体制づくり**（4施策）

- ・継続して取り組みを推進し、サイクリング環境を維持していく体制づくり（1施策）
- ・サイクリストのニーズ把握、利用実態の把握（2施策）
- ・研究・教育機関との連携（1施策）

### 4) 数値目標

「アワイチ」の年間走行台数 **2倍（2023年）**  
**1.5倍（2021年、中間年）**

(洲本市小路谷)	現状値	2万台【2019年】	目標値	4万台【2023年】	3万台【2021年】
(淡路市郡家)	現状値	3.5万台【2019年】	目標値	7万台【2023年】	5.5万台【2021年】